

シリーズ 西淀川記憶あつめ隊

Vol.15

「昔、ここに吉永小百合が来たんですよ。そんなときは、すごい人だからやった」。野里本町商店街で1953（昭和28）年創業の「御菓子司 吉野家」を営む二代目「主人・中谷さんの一言が」2日限りの雑貨マーケット」の開催、映画『若草物語』の上映へとつながっていきました。2015年秋、みてアート2015（御幣島芸術祭）のできごとです。



中谷 克昭さん

2015年11月27日
聞き取り

◆今、野里本町商店街はシャッターが閉まっているお店が多く、マンションや戸建て住宅が商店街の通りに面して建っていますよね。かつては、どんな商店街だったのですか？
阪神国道線の路面電車の駅が、商店街入口すぐの国道2号沿いであって、駅前商店街として、にぎわっていたなあ。商店街のまわりには映画館が4つもあった。子どものころは、知った大人に内緒でよう入れてもらってとった。工場で働いている人が仕事帰りに一杯やる飲み屋とか、パチンコ屋とかが、よくあつたわ。

◆吉永小百合が映画のロケでここに来たというの？
『若草物語』という日活の映画で、吉



映画『若草物語』上映会のポスター（みてアート2015）

永小百合のほかに、若川いづみ、浅岡ルリ子、和泉雅子という、女優が出てた映画。1964（昭和39）年のことで、当時私は高校2年生。ロケの時は、吉永小百合を見に、ものすごい人だからできてた。映画には、野里住吉神社が写ってるけど、ほかにも、屋上でロケをしている場面があって、あれは、姫里にあったホテルの屋上やないかと思ううで。

◆1964（昭和39）年は東京オリンピックの年ですが、どんな時代でしたか？
当時は集団就職で、ここ「吉野家」でも毎年一人、富山や石川、鹿児島、宮崎などから出て来た若者を雇っていた。店舗の奥2階に従業員が住めるように

なっていた。夕食の順番は、最初はおやじから。おやじがピフテキでも、子どもや従業員は、トンテキや！とにかく活気があつて、みんな生きるのに一杯。

◆11月7日と8日、みてアート2015（御幣島芸術祭）のイベントとして、商店街のシャッターが閉まっているお店の前に12店舗の「雑貨マーケット」が出店しました。7日の夜には『若草物語』を野里住吉神社の社務所で上映し、たくさんの方が見に来られました。最初、「みてアート」の話聞いたときは、人通りが少ないの

なっていて、家族を含めて12人ぐらいで生活しとったよ。女中さんもあって、母親は店のことがあるから、女中さんが家のことをやっていた。夕食の順番は、最初はおやじから。おやじがピフテキでも、子どもや従業員は、トンテキや！とにかく活気があつて、みんな生きるのに一杯。



で、ちょっと無理かなあと思っただけけどスタッフの熱意を感じてやろうと思った。

イベント当日はたくさんの方が来てくれて、よかったなあ。昔のにぎわいが戻ったみたいやった。うちとこも「みたらしだんご」が完売やったで（笑）。商店街はどの店も後継ぎがないのが深刻な問題。以前にぎわいを取り戻すのは難しいかもしれんけど、やれることは、やろうと思つたよ。 鐘

みてアート2015（御幣島芸術祭）は、西淀川区御幣島周辺をエリアにしたアートイベントで、2013年から毎年1回開催し、昨年は、はじめて野里本町商店街が会場の一つとなりました。詳しくは本紙P.9。